



湖東 だより 第2号



心臓血管センター
湖東記念病院

我々が次に出来ることは？ ～時間との闘い～

暑中お見舞い申し上げます。焼けつくような暑さが続く毎日でございますが、お障りなくお過ごしでしょうか。

最近のインターベンション治療におけるデバイス、テクニックの向上には目覚ましいものがあり、通常の待機的治疗に関しては、Drug eluting stentの登場以来、幾つかの克服しなければならない点も残ってはおりますが、ほぼ確立されたものと思われまゝす。困難な症例に対する治療も滋賀医科大学ならびに京都大学心臓血管外科とのコラボレーションにより、多くの選択肢の中から、最善の治療を施行することが可能になってまいりました。今後さらに治療のqualityを上げるには、やはり、急性期の対応ではないかと自身、考えております。

身近なところでは、AMIに対するemergent PCI (primary PCI) でしょうか。病院に搬送されても、再灌流まで一時間、二時間かかってしまえば、梗塞が完成してしまいます。自身の経験では胸痛を自覚後、約28分で再灌流できたにも関わらず、責任冠動脈領域が完全に壊死してしまったケースもあります(院外発症例)。AHAならびに日本循環器学会でもSTEMI(ST上昇型のAMI)は、可及的速やかにPCIを施行することとなっており、一分一秒でも早いほうが、より予後改善効果があるのは、すでに定説となっております。

しかしながら、単純ではありますが、常時実現可能にするのは非常に難しく、現実に可能な施設は日本でも少ないように思います。何故かと申しますと、確実丁寧かつ迅速な手技に依存するだけでなく、

心臓血管センター長
馬渕 博



先生方との日々の連携、適応を決める循環器専門医の常時滞在、救急車よりの情報転送、コメディカルに支えられる速やかなカテ室の準備等、すべてが緻密に繋がった体制が必要だからです。実現のためには、人材確保、ハードウェアの整備、バックアップ体制の充実等、難題が山積みです。

しかしながら当院では、あらゆるところで時間のlossを見直すなど、様々な問題点を検討することにより、所謂「Doctor to balloon time」の目標を30分としております。勿論、無理をして、スタッフが疲弊し、持続不可能であったり、qualityが低下したりすれば本末転倒であるため、バランスのとれた環境作りを心がけております。

また、外来における時間のlossの見直しに向け、とくに時間を要する心臓CTに心強い助っ人を導入致しました。武田医師より詳細は解説させていただきますが、リアルタイムに複数の画像解析を行うことができ、フィルム完成までの所要時間を半減させることが可能になりました。

今まで、原則当日中のCT結果説明を目標にしておりましたが、人数が多いと困難な日もあり、ご迷惑をお掛けしておりました。導入により、待ち時間も短縮され、より快適な外来環境ができました。引き続き、御用命頂ければ、誠に有り難く存じます。

最後になりましたが、先生方の皆様、健やかな夏をすごされますよう、心よりお祈り申し上げます。



最新のCT画像解析装置の導入について

1998年にマルチスライスCTが登場し、その後のCTの多列・高速化はめざましく、従来評価困難であるとされていました循環器領域、特に冠状動脈や下肢動脈などの描出能が飛躍的に向上いたしました。このことにより3次元画像の信頼性も向上し、現在では画像解析専用ワークステーションは画像診断領域において重要な役割を果たしています。

当院では、2006年10月にGE社製64列マルチスライスCTを導入し、現在までに約2,000件の心臓CT検査を行ってきましたが、その画像解析には多くの時間と労力が費やされ、結果的に検査できる症例数に限界が生じ、また検査当日中の患者様への説明にはかなりのストレス(リスク)が生じておりました。

この解決策として、当院では2009年6月にAdvantage Workstation Volume Share XT(AWXT)という最新型の画像解析専用ワークステーションを導入いたしました。

冠動脈解析は血管の形態と性状を観察しますため、多くの画像を作成、解析する必要があり、従来のワークステーションでは非常に手間のかかる作業でした。AWXTではこれらの画像がほぼ自動で作成され、診療放射線技師によって画像の確認と修正を加えるのみで作業を完了することが可能となりました。

従来、心臓検査や下肢動脈検査などの検査が続いた場合、同時に複数の症例の画像解析を行うことができませんでした。解析に時間のかかる症例があると、他症例の解析はストップしてしまうというリスクがございました。AWXTを導入したことにより、解析に時間を要する症例があったとしても、バックグラウンドで他症例の自動解析が可能となりましたので、診断効率の飛躍的な向上が期待できるようになりました。

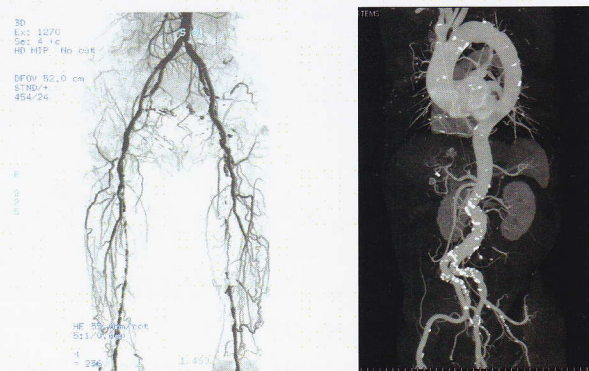
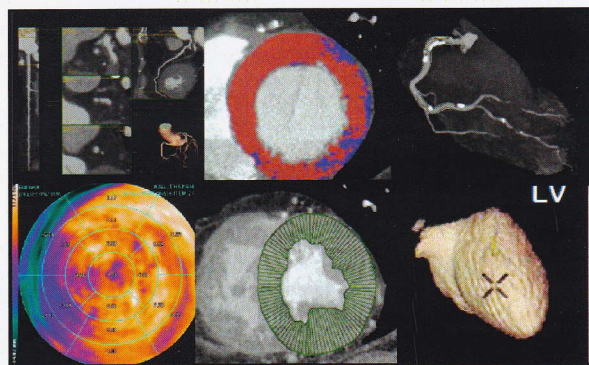
どうしても、石灰化の強い症例や、不整脈や体動によるアーチファクトが多い症例などでは画像解析に多くの時間や労力を必要としますが、この新しい画

心臓カテーテル室長
武田 輝規



像解析装置により、「本当に必要な部分へ時間を投入できる」という体勢ができました。

今後とも、このような最新のハードウェアを利用しつつ、皆様の御期待にそえるように我々も頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。



■循環器科外来担当表

		月	火	水	木	金	土
循環器科	午前	坂口	馬淵	村上院長 〈一般内科・循環器〉	巢山	村上院長 〈一般内科・循環器〉	非常勤
		武田	巢山	静田(2週)	前田	武田	
	午後	前田		坂口		馬淵	

〈午前診〉受付 7:30～11:30 診察 9:00～12:00

〈午後診〉受付 13:00～15:00 診察 13:30～15:30

H21.4.1改訂

※月1回 京都大学医学部附属病院 不整脈科 静田先生が来院されます。

※ペースメーカー外来 毎月第1金曜日 午後〈予約制〉

■循環器科外来について

平素は格別のご高配を賜り、又患者様をご紹介いただき厚く御礼申し上げます。

さて、当院の循環器科外来についてご紹介させていただきます。循環器科外来につきましては村上(院長)・非常勤医師を除きまして、原則予約制となりますが、先生方よりご連絡をいただいた際には、その医師が責任をもって診察させていただきます。

地域医療機関との連携と患者サービスの向上に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

ご質問等がございましたら、お気軽に地域連携室までお問い合わせください。

地域連携室



■ご案内

○電車でお越しの方

JR能登川駅よりタクシーで20分、バスで25分

(市ヶ原〔角能線〕行き・湖東記念病院前下車)

近江鉄道八日市駅よりタクシーで20分、バスで25分

(僧坊〔湖東線〕行き・湖東記念病院前下車)

○車でお越しの方

名神高速道路 八日市インターより15分

駐車場：150台

料 金：無料

※駐車場内での事故、盗難、破損等につきましては病院側では一切責任を負いませんのでご了承ください。

心臓血管センター 湖東記念病院

地域連携室 TEL. 0749-45-4512

FAX. 0749-45-3335

ホームページアドレス
URL <http://www.subarukai.jp/>

〒527-0134 滋賀県東近江市平松町2番地1
TEL. 0749-45-5000 FAX. 0749-45-5001